

留 学 報 告 書

記入日:2017年6月23日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本
留学先国	スウェーデン
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ルンド大学 現地言語: Lund university
留学期間	2016年8月～2017年6月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	Humanities and Theology <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2017年6月15日
明治大学卒業予定年	2019年3月

留学費用項目	現地通貨 (SEK)	円	備考
授業料		1,500,000 円	
宿舍費		600,000 円	
食費		800,000 円	
渡航旅費		200,000 円	
その他		円	
合計		3,100,000 円	

滞在形態関連	
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)	
	大学側が提供する宿舎
2)部屋の形態	
	<input type="checkbox"/> 個室 OR <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数7)
3)住居を探した方法:	
	ネット
4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
	環境は整っている。これ以上ない。留学生の多様性もすごい。留学の結果は、自分の努力次第で良くも悪くもなると思う。
現地情報	
1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?	
	<input checked="" type="checkbox"/> 利用する機会が無かった <input type="checkbox"/> 利用した:
2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。	
	友達。
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?	
	友達から聞いた。
4)パソコン, 携帯電話, インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。 (例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)	
	wifiの整備がしっかりしているので、それほど問題ない。自分は、SIMを使わなかったので、wifiがある場所でだけインターネットの取得が出来た。
5)現地での資金調達はどうに行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)	
	クレジット、日本円をforex bankなどで現地通貨に換金した。
6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。	
	特になし。
7)授業料の支払方法, 支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った, 現地で開設した銀行のチェックで支払った, 渡航前に留学先大学から指示があった, 渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)	
	渡航前に留学先から指示があった。
卒業後の進路について	
留学を通して生じた, 今後の進路についての考えについて教えてください。	
	まだ決まっていない。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
27.5 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位(未定) <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Scandinavian Culture and Society	スκανディナヴィア文化、社会入門
科目設置学部・研究科	Humanities and Theology
履修期間	2016 秋学期
単位数	7.5 ECTS
本学での単位認定状況	(未定) 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、ディスカッション(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 180 分が1回
担当教授	Mats Arvidson
授業内容	スκανディナヴィア諸国の文化、社会について
試験・課題など	レポート、プレゼンテーション
感想を自由記入	渡航後、最初に履修した科目であり、スウェーデンが属するスκανディナヴィアの歴史や、現在の様子等、概要をつかめる。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Swedish Level 1	スウェーデン語
科目設置学部・研究科	Humanities and Theology
履修期間	2017 春学期
単位数	5ECTS
本学での単位認定状況	(未定) 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 120 分が 2 回
担当教授	Pia Gustafson
授業内容	スウェーデン語の初級
試験・課題など	スウェーデン語でのオーラルテストと筆記試験。
感想を自由記入	0からスウェーデン語を学ぶ際に非常に役に立った。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Cultural Perspectives from Health, Lifestyle and Medicine	健康、生活、薬学から見る文化
科目設置学部・研究科	Humanities and Theology
履修期間	2017 春学期
単位数	7.5ECTS
本学での単位認定状況	(未定) 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式+ディスカッション(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 120~180 分が1回

担当教授	Markus Idvall
授業内容	主に、薬学や食事などの観点から見た文化の考え方。文化人類学の一環と言える。
試験・課題など	プレゼンテーション＋期末レポート
感想を自由記入	各回、文化人類学や、社会人類学の教授を招き、テーマの下で様々な視点から文化について考える。自分が履修した授業の中で、一番興味深いものだった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Diversity of World's Languages		世界の言語学の多様性	
科目設置学部・研究科	Humanities and Theology		
履修期間	2017 春学期		
単位数	7.5ECTS		
本学での単位認定状況	(未定) 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が2回		
担当教授	Arthur Holmer		
授業内容	言語類型論的に、世界のほぼすべての言語についての説明。また、その背景知識について。		
試験・課題など	プレゼンテーション＋それについてのレポート＋期末レポート		
感想を自由記入	言語類型論的に、言語学を学ぶことで、世界の言語における差異、類似点について理解できる。また、教授は、言語学の分野で有名な方であり、言語学について知らないことはなさそうだった。この授業だけで、言語学のかなりの知識が得られる。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
International Economics		国際経済学	
科目設置学部・研究科	Economics		
履修期間	2016 秋学期		
単位数	7.5ECTS		
本学での単位認定状況	(未定) 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が3回		
担当教授	Karin Olofsdotter		
授業内容	一般的な国際経済学について。		
試験・課題など	最後の期末試験ですべての成績が決まる。難易度はかなり高い。		
感想を自由記入	期末試験はかなり難しかった。なぜなら、経済学の用語についての説明や、数学の照明などを英語でやらなければいけないから。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Globalization in Pre-Modern World		先現代におけるグローバル化	
科目設置学部・研究科	Humanities and Theology		
履修期間	2017 春学期		
単位数	7.5ECTS		
本学での単位認定状況	(未定) 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)		

授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Mats Roslund
授業内容	考古学からグローバリゼーションを分析する。
試験・課題など	課題も考古学的観点からグローバリゼーションを分析するというものだった。
感想を自由記入	もう少し現代に近いグローバリゼーションを研究するかと思っていたので、考古学観点からの授業は自分にとって、あまり面白くなかった。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備, 試験勉強, 留学中, 留学後, 特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例: 語学試験の勉強, 選考, 出願, 留学中の中間試験, 期末試験, その他イベント等

2015年 1月～3月	明治での勉強
4月～7月	留学先大学についての情報収集、TOEFL などのテスト
8月～9月	出願
10月～12月	出願における、志望動機などの書類作成
2016年 1月～3月	留学先大学からの留学承認授与
4月～7月	スウェーデンについての知識収集
8月～9月	留学開始中間試験 9 月ごろ
10月～12月	1st term 終了
2017年 1月～3月	中間試験 3 月ごろ
4月～7月	2nd term 終了、帰国
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	日本は、LGBT や男女平等についての考え方が本当に遅れていると留学前に思っていた。自分は、その分野に対する関心や、もともとスウェーデンに対しての興味があったから。留学で1年間、日本を離れることで、スウェーデンの価値観と日本の価値観を比較できると考えたから。もちろん英語を学ぶこともできたらいいと思っていたが、英語で学びたかったから留学を選んだ。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	英語力は向こうで向上したので、結果オーライだったが、初めから高いスキルを持っているに越したことはないと思う。それを解消する方法として、もっと話す機会を作るべきだった。例えば、国際日本学部には type1 の日本人以外の教授が担当している授業があるが、日本人学生にとって敷居が高い印象を受ける。留学先で、それよりもっと英語を使わなければいけない環境にいることになるという事は、国際日本学部で勉強するうえで、そのような授業にチャレンジすべきだった。レポートに関しては、本当に自分の努力次第でどうにでもなると思う。(これはいい意味でも悪い意味でも)
この留学先を選んだ理由	日本人として、世界でも福祉、男女平等など多くの面で学ぶべきことが多いスウェーデンで1年間生活することによって、それを支えているスウェーデン人の考え方について知ることができると考えたから。また、ルンド大学は世界でも有名な大学であり、多くの国からの留学生を受け入れているので、生徒の多様性がアメリカに留学するより良いと考えたから。もちろん、ヨーロッパ、スカンディナヴィアについての興味が留学前から自分の中であったということが決め手の1つであった。
大学・学生の雰囲気	当たり前だが、勉強熱心な学生がほとんどなので、勉強をする環境としてはこれ以上ない。また、キャンパスが広くて充実している。もし、ある分野の参考文献が欲しいとき、そのキャンパスの図書館に行けば非常にいいものが見つかる。蔵書も多い。建物もモダンなものから、レトロな雰囲気のものもあるので、すごくモチベーションが上がった。
寮の雰囲気	寮では、金曜日はほとんどパーティがある。自分の寮は割とリラックスしていたい人が多いので、基本的に交流がある時は、リビングルームで一緒にテレビを見ていたりした。ただ、一緒に住んでいるのは、日本人だけではないので、皿を洗わない人がいたりする。それは自分の寮だけでなく、結構普通のことのようにだった。
交友関係	最初はもちろん、初めての地なので、友達がいるわけがなく、友達を作ることから始めた。具体的には、最初のオリエンテーションのパーティなどに多く参加した。そこであった人とは、違うパーティであつたりして英語を話す機会を確保した。その後、大学に日本語学科があったので、その人たちとの交流がほとんどになった。日本語がすでに得意な2年生、まだ上手くない1年生など、色々な人がいたので、英語はもちろん、日本語でも話してあげる機会は多かった。
困ったこと、大変だったこと	最初は、休憩があるとはいえ、2~3 時間に及ぶ授業はなかなか厳しいものだった。学ぶことも新しいことが多い、聞こえてくるのは全部英語、やっていることも国際日本よりもっと専門的となるとついていくのに必死だったし、大変だった。困ったことは、クレジットカードについてだった。スウェーデンはカード社会なので、現金払いがほとんどない。しかし、自分のクレジットカードは学生カードだったので、上限が10万円だった。1か月の食費だけなら、それで何とかなるが、旅行など含めるとその金額はかなり厳しいものだった。留学前に、もう少しそれについて準備しておくべきだった。
学習内容・勉強について	私は、主に、社会人類学と言語学を学んだ。ほかにも、多くの幅広いコースを履修したが、一番印象深く、ためになったのはこの2科だった。社会人類学を通して、文化とその地域の人々の考え方や行動、習慣を学んだ。フィールドワークなどを通して、社会人類学における方法学も学ぶことが出来たので良かった。言語学だけの話ではないけれども、言語学については特に専門用語が多い。しかし、それを自分で学び、知識を埋め合わせるしか授業についていき、学ぶ方法はないので、必死に勉強した。もともと、言語学の知識がかなりある生徒も多くいたので、授業のレベルとしては、かなり高かった。
課題・試験について	レポートとプレゼンテーションと試験のすべてを経験した。レポートに関しては、自分の情報収集の努力次第で色々変わらと思う。英語に関しては、やはりスウェーデン人は英語に対しての知識が自分よりも豊富なので、日本でAをもらっていたような内容で書いてもBやCで返ってくることは多かった。プレゼンテーションはもちろん自分の準備次第で成績が変わる。試験は、4時間ほど試験時間がとってあり、その中で自分のペースで進めていくものだった。ほとんどの生徒が2時間くらいで終わらせられる内容が多かった。

大学外の活動について	これといった活動は特にしていなかったが、積極的にLanguage Caféに行って、海外の生徒と話すようにしていた。また、ほかの留学生を集めてサッカーをすることも多かった。授業とは違って、カジュアルな会話ができるので楽しかった。日本語学科の生徒と集まる環境があったのでその会に参加して、週 1 回日本語を教えてあげたり、スウェーデン語を教えてもらったりしていた。
留学を志す人へ	自分のやりたいことをやれば良いと思う。そしてそれを自分のやり方でやっていけば良いと思う。最終的に思ったのは、無理に友達を作ろうとしたところで、その人とずっと過ごしていくわけではない。英語を話す機会ができるという意味ではいいが、別に無理する必要はないと思った。大学でも十分に英語を話す機会はあるし、自分のやり方で留学を進めていくのが一番だと思う。なぜなら、友達を作り留学するわけではないのだから。

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	ジム	ジム	自習	ジム	ジム	自習	自習
	自習	自習	自習	自習	授業	自習	自習
午後	授業	自習	授業	自習	自習	Language Café	留学生とサッカー
	授業	日本語学科との交流会	授業	自習	自習	Language Cafe	留学生とサッカー
夕刻	自習	日本語学科との交流会	ジム	自習	パーティ	ジム	自習
夜	自習	日本語学科の生徒との御飯	自習	自習	パーティ	自習	自習